

日蓮宗 頂光山

# 蓮光寺



RENKOJI TEMPLE



## 開創と浅草への移転

蓮光寺は今から約四百年前の文禄三年（一五九四）、両国矢ノ倉（現・中央区東日本橋）の地に、日蓮宗の寺として開創しました。時代は安土・桃山時代の後期。徳川家康が江戸城に入って四年目、関ヶ原の合戦の六年前にあたります。

開山・開基は源受院日寶上人です。日寶上人が日蓮聖人の御作と伝えられる大黒天に深く感応し、この寺を創建したことから、当初は「大黒山蓮光寺」と号しました。日寶上人は、元和二年（一六一六）十月十七日、示寂。

その後、両国の寺地は御用地として召し上げられ、正保元年（一六四四）、浅草新寺町（現・台東区元浅草）に替地（千三百八十二坪）を拝領し移転しました。この地はもと幕府徒組の屋敷地でしたが、多くの寺院が移転してきたため、新寺町とよばれました。蓮光寺の周囲には、吉祥院・法泉寺・長遠寺・地藏院・妙福寺といった寺院が建ちならんでいました。

## 法華寺との関係

蓮光寺は、現在は身延山久遠寺を本寺とし、その直末となっていますが、江戸時代の中頃までは、碑文谷の法華寺が本寺でした。

法華寺はもと天台宗でしたが、鎌倉時代後期に、日蓮聖人門下の日源上人（静岡県岩本山実相寺開山）によって、日蓮宗に改められていました。

『御府内寺社備考』によれば、当時蓮光寺にあった高祖大菩薩像は、日蓮聖人の中老、日法上人の御作で、長く法華寺の寺宝とされてきました。そして、日寶上人が蓮光寺を創建したさい、この像を授けられ、法華寺末の代表である頭職を申しつけられたと記されています。

なお、頭職をつとめていた頃には、寺中に圓理院、受経院、専玄房、了壽房という四つの坊があったと、文政年間の記録『浅草寺社書上』に書かれています。

さて、法華寺は江戸時代、不受不施派の拠点となっていました。元禄十一年（一六九八）、幕府によって取りつぶされ、天台宗に改宗されました。

これにともない、蓮光寺は同年、他の多くの末寺とともに身延山久遠寺直末となりました。ときの住職は八世慈雲院日蓮上人でした。日蓮上人は元禄九年（一六九六）に住職となり、宝永五年（一七〇八）十二月二十二日に示寂しています。



本堂内陣／The interior of the Main Hall

## Founding and Transfer to Asakusa

Renkoji Temple was founded by Nippo Shonin (d. 1616) in 1594 in the Ryogoku district of Edo (now the Chuo Ward of Tokyo) as a temple of the Nichiren sect. He founded it because he was deeply inspired by the statue of Daikokuten (the god Daikoku), a god of wealth and happiness and protector of Buddhism, held to be a work by Nichiren.

Subsequently the Ryogoku site was taken over by the government and in exchange in 1644 the temple was given a new site in the area of Asakusa (now in Tokyo's Taito Ward). Because so many

temples moved there, it became known as Shinteramachi (New Temple Town).

Renkoji's head temple is Kuonji in Minobu, Yamanashi Prefecture, but until early in the eighteenth century its head temple was Hokkeji in Himon'ya, Edo.

According to official documents, the great statue at the temple of the founder of the sect, Nichiren, was a work by the priest Nippo Shonin (1258-1341), a senior disciple of Nichiren. It was for years the treasure of Hokkeji. It is also recorded that when the later Nippo Shonin established Renkoji, this statue was presented to the temple and he was appointed its head priest.



## 門前町と「土富店の大黒天」

江戸中期から、浅草かいわいの各寺院はつぎつぎに門前町をひらきました。門前町は、寺社が幕府の許可を得て、その境内地の一部を町屋として貸し出すもので、それが町の発展にもつながりました。

蓮光寺も幕府（寺社奉行）に願い出て、元文三年（一七三八）に三棟の町屋を建て、門前町をひらいていきます。ちなみに、ときの寺社奉行は大岡忠相でした。さて、門前町の発展とともに、さまざまな庶民信仰が盛り上がりを見せました。日蓮聖人作と伝えられる蓮光寺の大黒天も、「土富店の大黒天」とよばれ、多くの人びとの信仰を集めました。なお、「土富店」は新寺町かいわいの俗称です。

## 大火

火事の多い江戸の町で、蓮光寺も火の災難に無縁ではありませんでした。

文化三年（一八〇六）三月四日、世に「丙寅の大火」とよばれる大火事がありました。芝草町より出火した火は、折りからの南風にあおられて京橋、日本橋、神田、浅草まで燃えひろがり、蓮光寺も類焼してしまいます。この大火は、明暦・明和年度の大火とともに「江戸三大火」とよばれています。

## 出開帳

再建された蓮光寺において、出開帳が行なわれたことが、「武江年表」から読み取れます。出開帳とは、寺院が他所へ秘仏などを出張させ、帳をひらいて公開するものです。

『武江年表』天保七年（一八三六）の項……

四月より、浅草町蓮光寺にて

遠州貫名山妙日寺 祖師開帳

蓮光寺の境内は、秘仏と縁を結ぼうとする参拝客でにぎわったことでしょう。



手水舎 / A place of purification

## The Temple Town and Dobudana Daikokuten

In the late seventeenth century, each of the temples in the Asakusa area leased areas of its precincts for the building of shops, with the approval of the shogunate, and that contributed to urban development. Renkoji also submitted a petition to the shogunate for permission to build three adjoining shops and opened a business district within the temple in 1738.

As the area developed, a variety of folk beliefs prospered. The statue of Daikokuten was known as Dobudana no Daikokuten and was the object of many peoples' devotion. Dobudana was the popular name for Shinteramachi.

## The Great Fire

Renkoji did not escape from the dangerous fires for which Edo was well known. On March 4, 1806, a great fire broke out, and with the prevailing southerly winds, it spread to Kyobashi, Nihonbashi, Kanda, and Asakusa, and Renkoji was destroyed.



浄行菩薩 / Pure Conduct Bodhisattva



浅草当時の絵図 文久元年（1861） / An 1861 map of Asakusa



釈迦如来立像（江戸初期）  
Shakyamuni Buddha (17th century)



## 近代から現代へ

幕末、明治維新の動乱期をへて、明治を迎えると、寺院は神仏分離令、それにともなう廃仏毀釈のきびしい試練にさらされました。しかし、蓮光寺は檀信徒の浄信にささえられ、直接痛手をこうむることはありませんでした。なお、明治二年（一八六九）、蓮光寺のある新寺町一帯は「永住町」と改名されました。

大正四年（一九一五）七月、当寺二十八世観事院日亮上人の代、台東区の区画整理を機に、蓮光寺は現在地に移転しました。

## インド独立の志士 スバス・チャンドラ・ボース

第二次世界大戦後の蓮光寺の歴史において、インド独立の志士、スバス・チャンドラ・ボースは、特筆すべき存在です。くわしくは別項でのべますが、昭和二十年（一九四五）、台湾での飛行機事故によって死去したボースの葬儀を蓮光寺で挙行了したのは、当寺二十九世潤乗院日輝（望月教栄）師の、仏教者としての英断によるものでした。ボースの遺骨はそのまま蓮光寺に安置され、現在も手厚く供養をつづけています。

日輝師は、昭和五十四年（一九七九）六月二十日、示寂。

昭和五十八年（一九八三）、蓮光寺は寺門・檀信徒の尽力により本堂・庫裏・大黒堂を改築し、現在に至っています。



改築前の本堂（1981年）／The Main Hall before reconstruction

## Modern Period to the Present

Following the Meiji Restoration of 1868, temples were threatened by a decree separating Buddhism from Shinto, and the ordeal of the nationwide anti-Buddhist movement to destroy Buddhist temples. However, Renkoji was sustained by the pure faith of its followers and did not suffer direct damage.

In 1915 during the term of the 28th head priest, Nichiryo Shonin, when Taito Ward was reorganized, Renkoji moved to its current site.

In 1983 the Main Hall, the residence of the head priest and his family, and the Daikoku Hall were restored thanks to the tremendous efforts of the supporters and believers.

## The Statue of the God Kishimo

The statue of the god Kishimo is a work by Saicho (767-822), the priest and founder of the Tendai sect. Kishimo (Hariti in Sanskrit) was formerly a demon who ate human beings, but hearing the teaching of Shakyamuni, she repented her sins and became a god of easy delivery and child rearing.



歴代上人供養塔  
The graves of the head priests of renkoji



左＝祈禱本尊

日蓮聖人の中老、日法上人の御作と伝えられる祈禱曼荼羅で、その霊験はあらたかです。

Left: The prayer mandala by Nippo Shonin (1258-1341), a senior disciple of Nichiren

右＝鬼子母神

鬼子母神は、もとは人の子をとって喰う悪鬼でした。そのため恐ろしい姿をしていますが、お釈迦さまのおさとしによって改心し、安産・子育ての神となり、また法華經の守護神となりました。

Right: The god Kishimo



## 日蓮宗について

蓮光寺は日蓮聖人の教えを伝える日蓮宗のお寺です。日蓮聖人は、今から七百年前の鎌倉時代、貞応元年（一二二二）に、現在の千葉県安房郡天津小湊にお生まれになり、十二歳のとき、小湊からほど近い清澄寺にはいられました。

十六歳で得度された聖人は、安房を旅立たれ、十数年にわたり鎌倉・比叡山・三井・高野山でさまざまな教学を学ばれました。そして、末法の世の人びとを救うことができるのは、「法華経」しかないことを確信するに至り、建長五年（一二五三）四月二十八日、清澄寺において立教開宗されました。

その後、聖人は法華経の教えをひろめるため、たびたび壮烈な法難にあいました。しかし、妥協することなくこれを克服し、六十一年の生涯を、法華経の弘通にささげられました。

法華経は、お釈迦様が説かれた最高の教えです。日蓮宗では、釈迦牟尼仏をご本尊とし、法華経の魂がこめられた「南無妙法蓮華経」のお題目を唱えたもつことを、もつとも大切な修行としています。

私たちは、宗祖日蓮聖人の教えのもとに、生活の中で信行に励み、その教えをひろめることによって、世界の平和と人類の幸福、そして個人の幸せが実現すると確信しています。

## The Nichiren Sect

Renkoji is a Nichiren sect temple which transmits the teachings of Nichiren (1222-82), who was born in the fishing village of Kominato (in the present Chiba Prefecture). At the age of twelve he entered the temple Seichoji near his home.

Later, he undertook a study tour lasting over ten years, visiting such places as Mount Hiei and Mount Koya. Coming ultimately to the conclusion that human salvation lay only in the Lotus Sutra, on April 28, 1253, he set forth his beliefs, declaring the founding of his sect.

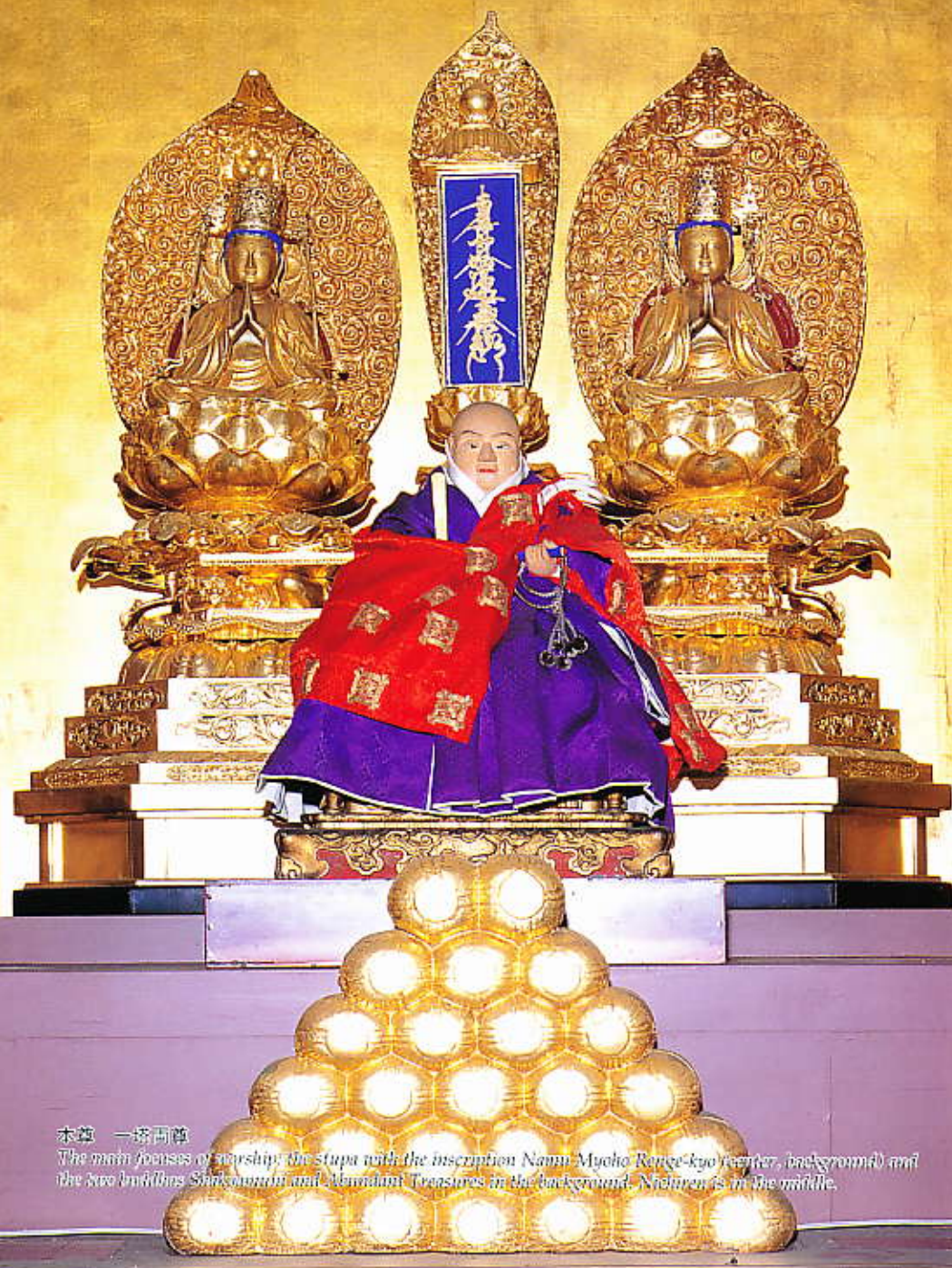
Later, because he spread the teachings of the Lotus Sutra, he was subject to relentless religious persecution. However, he overcame this without compromising, and devoted the remainder to the propagation of the Lotus Sutra, which is the greatest teaching of Shakyamuni Buddha. Shakyamuni is revered as the central object of worship.



お施餓鬼法要 / A memorial service



位牌欄 / Memorial tablets



本尊 一塔両尊

The main focuses of worship: the stupa with the inscription *Namu Myōhō Renge-kyō* (center, background) and the two brilliant Shakyamuni and Abundant Treasures in the background. Nichiren is in the middle.



## 蓮光寺の大黒さま

蓮光寺本堂の右手にある大黒堂には、日蓮聖人の御作と伝えられる大黒天をおまつりしています。

文永元年（一二六四）八月、日蓮聖人が母妙蓮尼の病氣平癒を祈って、小湊の生家の庭の松の木で彫ったといわれる大黒さまです。

『浅草寺社書上』によると、天正年間（一五七三～一五九二）、蓮光寺の開山日寶上人が、説法教化のため各地を巡行していたおり、宗祖の生誕地である小湊にたちより、庄屋の娘の難産を助けました。その礼として寄進されたのが、この大黒天像でした。

庄屋の家の先祖は、日蓮聖人の母、妙蓮尼につかえていた縁で、妙蓮尼からこの像を授けられていたのです。

日寶上人はこの大黒天像によって深く感じるところあり、一カ寺を建立しました。殿堂が落成したとき、池に大きな蓮の花が開き、その上に大黒天が光を放っていました。この瑞祥によって「大黒山蓮光寺」と号し、また江戸庶民も「大黒寺」と呼んだと『浅草寺社書上』に記されています。

その後、この大黒天は、開運、安産、病氣平癒に靈驗あらたかな「土富店の大黒」として、江戸庶民に広く信仰され、参拝者が絶えませんでした。浅草から移転した現在も、多くの人びとが参拝に訪れています。

## Renkoji and Daikokuten

To the right of the Main Hall of Renkoji is the Daikoku Hall, where a statue of Daikokuten is enshrined. It is said that Nichiren carved it in 1264 from a pine tree near the house where he was born, as an act of devotion to bring about his mother's recovery from an illness.

Between 1573 and 1592 Nippo Shonin traveled throughout the country spreading the teachings. In Kominato, he assisted with the difficult birth of the daughter of a village headman. In gratitude the headman gave him the statue of Daikokuten. The headman's ancestors had received it from Nichiren's mother for services rendered.

When the great hall was completed, a large lotus flower bloomed in the pond and on it appeared a radiant Daikokuten.

After that, this Daikokuten was ceaselessly worshipped by the people of Edo in the belief that it possessed miraculous powers for bringing good fortune, safe child-

birth, and recovery from illness.



大黒堂内陣／The interior of the Daikoku Hall



お前立・土富店の大黒天／  
This copy of the statue of Daikokuten  
is publicly displayed as a focus of wor-  
ship in place of the original statue  
seen on the facing page



土富店の大黒天／The original statue of Daikokuten,  
referred to as Dobudana no Daikokuten



## スバス・チャンドラ・ボースについて

スバス・チャンドラ・ボース（一八九七―一九四五）は、ガンジー、ネルと並び称されるインド独立運動の英雄です。

インドは、一七五七年にイギリスの植民地となって以来、イギリスのドル箱として富を搾取されつづけた。インドの人びとは、たびたびイギリス支配に抵抗しましたが、武力をもたない民衆運動は、きびしい弾圧によってつぶされました。

こうした状況のもとで、もはやそれまでの穏健な抵抗運動ではインドは解放できないと考え、急進的な反英、独立主義をとったのが、ボースでした。

第二次世界大戦が勃発すると、ボースはイギリスの敵であるドイツに亡命し、インド独立のため果敢な言論活動を展開しました。そして、日本が英米に宣戦布告すると、インド独立のためには日本の協力が不可欠と、昭和十八年（一九四三）五月、来日して政府にインド独立支援を要請し、その確約をとりつけました。

同年七月、日本占領下のシンガポールで、ボースはインド独立連盟総裁、インド国民軍司令官に就任。さらに同年十月、自由インド仮政府を樹立して、みずから首席となりました。この頃からボースはネタジ（統領・指導者）の尊称でよばれるようになり、そのたぐいまれな情熱と指導力は、インド兵に強烈な祖国愛と

戦闘精神を植えつけました。

昭和十九年（一九四四）一月、日本はビルマ防衛のため、イギリス軍の前線基地であるインド領インパールに反撃する作戦（いわゆるインパール作戦）を発令。ボース率いるインド国民軍もこの作戦にくわわり、二万の将兵をビルマに進めました。

しかし、物量においてはるかにまさるイギリス軍の爆撃、さらに雨季による豪雨に追い討ちをかけられ、作戦は失敗に終わりました。

昭和二十年（一九四五）八月の日本の敗戦後も、ボースの闘志はおとろえず、ソ連と結んで北からインドへ侵攻する計画をいだいていました。ところが、八月十八日、ボースはソ連に向かう途中、台湾の台北で飛行機事故にあい、亡くなってしまいました。

しかし、ボースが生涯をかけた祖国独立の闘いは、やがてインドの民衆の心の中に、自由と独立への希望を燃え上がらせることになりました。それが、昭和二十二年（一九四七）八月十四日のインドの独立につながっていったのでした。



スバス・チャンドラ・ボースの遺骨が安置されている供養塔  
The shrine containing the ashes of Subhas Chandra Bose



スバス・チャンドラ・ボース像  
The bust of Subhas Chandra Bose

### Subhas Chandra Bose

Subhas Chandra Bose (1897-1945) was a hero of the Indian independence movement. From the time India was colonized by Great Britain in 1757, its riches were constantly exploited. The Indian people rose repeatedly against British rule, but the popular independence movement, which had no arms, was vigorously suppressed.

Realizing that India had not been liberated by the moderate resistance movement, Chandra Bose advocated a more radical anti-British independence movement.

In July 1943, in Japanese-occupied Singapore, Bose was made president of the Indian Independence League and commander of the Indian National Army (INA). His leadership imbued Indian soldiers with an intense patriotism and fighting spirit.

In January 1944, to defend Burma, Japan

commenced the so-called Imphal Campaign against the front-line British base in the Indian-controlled Imphal Basin. The INA, led by Chandra Bose, joined in this campaign, and 20,000 officers and men moved into Burma. However, because of the counteroffensive by the British, which had vastly superior supply lines, and the onset of the monsoon season, the campaign ended in failure.

Following the defeat of Japan in 1945, Bose's combative spirit remained undiminished. He embraced a plan to invade India from the north with the cooperation of the Soviet Union. But on August 18, on his way to U.S.S.R., he died when his plane crashed in Taipei, Taiwan.

Bose's lifelong battle to establish an independent homeland encouraged India's desire for freedom and independence. This in turn led to the establishment of Indian independence on August 14, 1947.



## 蓮光寺とスバス・チャンドラ・ボースについて

飛行機事故で不慮の死をとげたスバス・チャンドラ・ボースの遺骨は、台湾の日本軍司令部から東京の参謀本部へ、そしてインド独立連盟の関係者へと手渡されました。しかし、終戦直後の不安な世相のなかで、葬儀を引き受ける寺院がなく、関係者は困惑していました。相談を受けた当寺二十九世潤乗院日輝（望月教栄）師は、英断をもってこれを引き受け、九月十八日に葬儀をとりおこないました。

ボースの遺骨は、そのまま蓮光寺に安置されることになりました。外部には、独立の英雄の遺骨を、私欲に利用しようとする動きや不純な策動もありましたが、日輝師は仏教者としての信念のもとに遺骨をまもり、供養をつづけました。

この間、昭和三十二年（一九五七）にはジャワハラル・ネール首相がお詣りにこられ、異郷に眠る同志の霊をあつく弔われました。

翌三十三年にはブラサット大統領、さらに昭和四十四年（一九六九）にはインディラ・ガンジー首相も参拝されました。

平成二年（一九九〇）、スバス・チャンドラ・ボース・アカデミーによって、境内に供養碑が建立され、平成六年（一九九四）八月十八日には、百名近い参列者を集めて、五十回忌法要が挙行されました。

## 年中行事

○春季彼岸会（中日法要）

三月十八〜二十四日

○盂蘭盆会

七月十三〜十五日

○施餓鬼会

七月中

○秋季彼岸会（中日法要）

九月十八〜二十四日

○ご先祖と六道四生有縁無縁の諸精霊を供養する行事

○報恩お会式

十月十三日

日蓮聖人のお徳をたたえ、報恩感謝の誠をささげる行事です。

○大黒天甲子祭

甲子の縁日（年に六日）



墓地全景 / Aerial view of the Renkoji cemetery



墓参風景  
A family visits  
the family plot



【交通】  
○地下鉄丸の内線「東高円寺」駅  
下車徒歩約五分  
○都営バス・京王バス  
バス停「セシオン杉並前」  
下車徒歩約三分

Access to Renkoji  
Subway: About 5 minutes' walk from Higashi Koenji Station on the Marunouchi Line

## Renkoji and Subhas Chandra Bose

The remains of Chandra Bose were sent from the Japanese military headquarters in Taiwan to the General Staff Headquarters in Tokyo, and finally to the Indian Independence League. Reverend Nichiki, Renkoji's 29th head priest, agreed to hold the funeral on September 18, 1945.

Bose's remains were enshrined at Renkoji. Despite attempts by others to make use of the remains for improper purposes, Reverend Nichiki protected them and continued to perform memorial services.

In 1957 Prime Minister Jawaharlal Nehru, in 1958 Indian President Prasad, and in 1969 Prime Minister Indira Gandhi also came to pay their respects. In 1990 a monument was set up within the precincts by the Subhas Chandra Bose Academy, and on August 18, 1994, close to one hundred people gathered for the 50th anniversary memorial service.



スバス・チャンドラ・ボース法要  
A memorial service for Subhas Chandra Bose





寺号 蓮光寺  
 山号 頂光山  
 本尊 一塔兩尊  
 宗派 日蓮宗  
 總本山 身延山久遠寺  
 宗祖 日蓮聖人  
 開創 文禄3年(1594)  
 開山基 源受院日寶上人  
 住職 30世 望月康史

Renkoji Temple was founded in 1594  
 by Nippo Shonin. It is a Nichiren sect  
 temple whose head temple is Kuonji in  
 Minobu, Yamanashi Prefecture. Ren-  
 koji's main focuses of worship are one  
 stupa with the inscription Namu  
 Myoho Renge-kyo and two buddhas  
 Shakyamuni and Abundant Treasures  
 (Prabhutaratna). Koshi Mochizuki is the  
 30th head priest of Renkoji.

Published in 1996 by Renkoji.  
 Printed in Japan.

日蓮宗 頂光山 蓮光寺  
 RENKOJI TEMPLE

東京都杉並区和田3-30-20  
 3-30-20 WADA, SUGINAMI-KU, TOKYO, JAPAN  
 Tel: 03-3311-7832  
 Fax: 03-3316-7751